

第2学年A組 社会科学習指導案

授業者 細野 悠司

1 単元名 近世の日本

～南蛮屏風の描かれた近世前半はどのような時代だったのだろうか。

「学習成果を振り返り、これからの学習の見通しを立てよう」～

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、中学校学習指導要領（平成29年告示）2内容 B (3)に以下のように位置付けられるものである。

- (3) 近世の日本
課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識を身に付けること。
 (ア) 世界の動きと統一事業
 (イ) 江戸幕府の成立と対外関係
 (ウ) 産業の発達と町人文化
 (エ) 幕府の政治の展開
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
 (ア) 交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、アの(ア)から(エ)までについて近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現すること。
 (イ) 近世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現すること。

本単元においては、世界の動きと統一事業、ヨーロッパ人来航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などを基に、近世社会の基礎がつけられたことを理解することが求められている。

内容の取扱いには、「(3) のアの(ア)の『ヨーロッパ人来航の背景』については、新航路の開拓を中心に取り扱い、その背景となるアジアの交易の状況やムスリム商人などの役割と世界の結び付きに気付かせること。また、宗教改革についても触れること。」とあることから南蛮屏風を単元の中心におき、授業を展開していく。

(2) 指導観

本単元では、南蛮屏風を単元の中心におく。このことによって、挑戦心を引き出すねらいがある。挑戦しやすい環境づくりのために生徒が「やってみよう!」「今は分からないけど、授業が進んでいくうちに分かるかもしれない」¹と思えるような教材との出会いを大切にしたい。

南蛮屏風は定番の資料ではあるが、もう一度歴史学習の史料としての価値を再認識し、今までの多くの授業実践を基に新たな問い方、捉え方から生徒が「問い」を追究したくなる授業を展開することで学習の見通しを持たせたり、学びを振り返ることの重要性を気付かせたりするねらいがある。これは生徒のメタ認知能力を育成するねらいもある。

(3) 研究の手立てについて

授業の設計についてと思考の変容が読み取れる「社会科学びの地図」の活用については教科論を参考にされたい。

【手立て1】挑戦心を引き出す学習指導の工夫について

- ・本校社会科では生徒の挑戦心を「学習活動において、現代社会に見られる課題を解決しようとするところから、よりよい社会の実現を目指す姿」と捉えた。それを引き出すために、単元を通して生徒自ら問い続け課題解決に取り組めるような学習指導の工夫を行った。それらは、単元の指導計画や本時の展開において示す。
- ・「自律型学習者を育てる4つのハピネスマインド」ⁱⁱを参考に生徒に対して「とりあえずやってみよう」「できないは伸びしろ」「協力すること」「自分のよさを生かそう」「自分らしく」といった言葉を投げかけた。

【手立て2】個別最適な学びの工夫

- ・本校社会科では授業の設計と生徒の思考の変容を自身が認識するためなどを目的に「社会科学びの地図」という振り返りのワークシートを活用している。「学びの地図」を形成的評価につなげることで、生徒が学習を自己調整したり、学習課題を追究する際、各々の学習目標の設定の手助けとしている。詳細は教科論を参考にされたい。
- ・これまでの「教える」授業から「導く」授業へ教師の役割の重点を変化させることによって、生徒の学びのファシリテーター、コーチといった立場を意識した指導ⁱⁱⁱを行った。

3 単元の指導計画

(1) 単元の目標

- ・ヨーロッパ人来航の背景とその影響，織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係，武将や豪商などの生活文化の展開などを基に，近世社会の基礎がつけられたことを理解する。
- ・交易の広がりとその影響，統一政権の諸政策の目的，産業の発達と文化の担い手の変化，社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して，事象を相互に関連付けるなどして，アの(ア)から(エ)までについて近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現する。
- ・近世の日本を大観して，時代の特色を多面的・多角的に考察し，表現する。
- ・近世の日本について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする。

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ人来航の背景とその影響，織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係，武将や豪商などの生活文化の展開などを基に，近世社会の基礎がつけられたことを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交易の広がりとその影響，統一政権の諸政策の目的，産業の発達と文化の担い手の変化，社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して，事象を相互に関連付けるなどして，アの(ア)から(エ)までについて近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現している ・近世の日本を大観して，時代の特色を多面的・多角的に考察し，表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近世の日本について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

(3) 単元の指導計画（8時間扱い）

○「評定に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」

次	ねらい・学習活動等 ★「挑戦心」を引き出す学習指導の工夫	評価の観点			評価規準（評価方法）
		知	思	態	
第一次 1時間	<p>【第一次のねらい】「南蛮図屏風の描かれた近世前半はどのような時代だったのだろうか。」について資料を活用して考察し、話し合った結果を発表し、単元の見直しをもつ。</p> <p>・南蛮屏風を読み取り当時の様子を読み取る。 ・近代のイメージを揺さぶる史料を提示し、今後の小単元の課題を探究する必要感をもたせる。</p>				
	<p>【小単元を貫く学習問題】「南蛮図屏風の描かれた近世前半はどのような時代だったのだろうか。」</p> <p>・これからの学習のイメージを取り上げ整理し、今後の学習の見直しをもつ。 ★時代ごとの特色の推移や比較といった見方・考え方を働かせることができる問いの設定。</p>			●	●整理した近世のイメージから、これからの学習の見直しをもっている記述がある。
第二、三、四次 5時間	<p>【第二次のねらい】2次の課題「南蛮図屏風に描かれた海外の人々はなぜ日本にやってきたのだろうか？」について資料を活用して考察し、話し合った結果を発表する。 【第三次のねらい】3次の課題「スパイスを手に入れるためにどうやってインドに行く？」について資料を活用して考察し、話し合った結果を発表する。 【第四次のねらい】これまでの学習成果をまとめ、表現する。自分の成長を実感する。</p>				
	<p>【第二次の課題】「南蛮図屏風に描かれた海外の人々はなぜ日本にやってきたのだろうか？」</p> <p>・十字軍、ルネサンス、レコンキスタ、宗教改革などから、それぞれの生活の特色を読み取る。 ・それぞれの時代の生活を比較し生活の違いに着目して、その時代に争いが起きていた理由を考察する。 ★隣の人同士で簡単に意見交換をする。</p>	● 技			●資料からそれぞれの時代の特色を読み取っている。 ○各時代の特色を理解している。 ●それぞれの時代の生活を比較し生活の違いに着目して、その時代に争いが起きていた理由を考察している。
	<p>【第三次の課題】「スパイスを手に入れるためにどうやってインドに行く？」</p> <p>・インドへ行く方法を考え、航路や方法を地図に表す。 ・株式会社の始まり ・交易の広がりとその影響に着目して、ヨーロッパのこの時代の特色を考察する。</p>	● 技		●	●地図を活用し自分の考えを表している。 ●交易の広がりとその影響に着目して、ヨーロッパのこの時代の特色を考察する。
	<p>【第四次の課題】「南蛮図屏風の描かれていない部分の屏風を作成し、学習成果を伝えよう。」</p> <p>・南蛮屏風には描かれていない部分の様子を描き、ヨーロッパでの出来事についてまとめ、理解を深める。 ・交易の広がりとその影響について事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の様子を多面的・多角的に考察して、表現する。 ★隣の人同士で簡単に意見交換をする。</p>	○		○	○ヨーロッパ人來航の背景と出来事について理解している。 ○交易の広がりとその影響に着目して、事象を相互に関連付けるなど近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。
第五次 2時間 本時2/2	<p>【第五次のねらい】</p> <p>・各次の学習内容を踏まえて、小単元の学習課題「南蛮図屏風の描かれた近世前半はどのような時代だったのだろうか。」について考察し「社会科学びの地図」に記入する。 ・南蛮図屏風の描かれた以降の近世はどのような時代だったのか、次の単元の学習の見直しを立てる。</p>				
	<p>【小単元を貫く学習問題】「南蛮図屏風の描かれた近世前半はどのような時代だったのだろうか。」</p> <p>・「南蛮屏風の描かれた近世前半はどのような時代だったのだろうか。」について自分と対話し、これまでの学習履歴を振り返り、意見を練り直す。 ★4人班で意見交換をする。 ・近世の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>	○	○	○	○これまでの学習を活用し学習問題の視点から多面的、多角的にとらえ記述している。 ○南蛮屏風の描かれた以降の近世はどのような時代だったのか、クラスメイトと協働した成果によって学習の見直しが一層の深まりが見られる。

4 本時の学習 (8/8 時間目)

(1) ねらい

- ・南蛮屏風の描かれた以降の近世はどのような時代だったのか、次の単元への見通しを立てる。

(2) 展開

過程	学習活動・学習内容	・指導上の留意点 ★「挑戦心」を引き出す学習指導の工夫	観点 具体的評価規準
導入 (5)	1 前時まで発表のVTRと考えた意見のスライドを見ながら、本時の課題を設定する。	・なるべく素早く課題設定を行う。	
課題提示	課題 南蛮図屏風の描かれた以降の近世はどのような時代だったのか、これからの学習の見通しを立てよう。		
課題追究 (10)	2 「南蛮屏風の描かれた以降の近世はどのような時代だったのか」について自分と対話し、これまでの学習履歴を振り返り、意見を考える。 ・ teams の学びの地図に記入する。 ・ forms に考えを転記する。 ・ テキストマイニングを活用して、クラスの考えを可視化する。	★これまでの学習を生かせるように本時の課題を、「南蛮屏風の描かれた以降の近世はどのような時代だったのか、これからの学習の見通しを立てよう。」とし時代ごとの特色の推移と比較といった見方・考え方を働かせることができる問いの工夫を行った。 ★生徒が「問い」を追究したくなる授業を展開することで学習の見通しを持たせたり、学びを振り返ることの重要性を気付かせたりすることで生徒のメタ認知能力の育成を図る。 ★机間指導の際には「何が分からない?」「何に困ってる?」「とりあえずやってみよう」「できないは伸びしろ」「周りの人と相談してもいいよ」「自分のよさを生かそう」「自分らしく」といった言葉を投げる。	
(15)	3 「これからの学習の見通しを立てよう」に対してグループで話し合い、グループの意見を共有する。 ・ 予想される生徒の意見 「キリスト教の影響によって生活に変化があるのではないか」「ヨーロッパの科学や文化が日本を変えるのではないか」	主 南蛮屏風の描かれた以降の近世はどのような時代だったのか、次の単元の学習の見通しを立てている。 ・ 机間指導を行いながら、話し合いが行き詰まっているグループには支援を行う。	
(10)	4 意見を発表し、考えを共有し、これからの学習の方向づけていく ・ forms に考えを転記する。 ・ テキストマイニングを活用して、クラスの考えを可視化する。	・ クラスメイトの発表を記録させる。	
成果の整理 (10)	5 「学びの地図」に本時の学習を振り返り、この授業で一番大切だと思ったことを書く。	主 南蛮屏風の描かれた以降の近世はどのような時代だったのか、クラスメイトと協働した成果によって学習の見通しが一層の深まりが見られる。 ・ 今日の学習についてわかったことや、「学びの地図」に記入させる。	

※教科書 東京書籍『新編 新しい社会 歴史』2021年版

参考文献

- ・ 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編
- ・ 国立教育政策研究所教育課程研究センター『中学校「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』
- ・ 山本 崇雄『「学びのミライ地図」の描き方 子どもの「やりたい!」を自律した学びにつなげる』学陽書房, 2022
- ・ 堀 哲夫『新訂 一枚ポートフォリオ評価OPPA』東洋館出版社, 2019
- ・ 中島 雅子『自己評価による授業改善』東洋館出版社, 2019
- ・ 西岡 加名恵 (著, 編集), 石井 英真 (著, 編集)『教育評価重要用語事典』明治図書出版, 2021
- ・ 松本 一夫『史料で解き明かす日本史: 歴史学者の謎解きを体験する』ベレ出版, 2021
- ・ リンダ・S・レヴィスティック (著), キース・C・バートン (著), 松澤 剛 (翻訳), 武内流加 (翻訳), 吉田新一郎 (翻訳)『歴史をする: 生徒をいかす教え方・学び方とその評価』新評論, 2021
- ・ ダン ロススタイン (著), ルース サンタナ (著), Dan Rothstein (原著), Luz Santana (原著), 吉田 新一郎 (翻訳)『たった一つを変えるだけ: クラスも教師も自立する「質問づくり」』新評論, 2015
- ・ 中谷 素之 (著, 編集), 岡田 涼 (著, 編集), 犬塚 美輪 (著, 編集)『子どもと大人の主体的・自律的な学びを支える実践 教師・指導者のための自己調整学習』福村出版, 2021

i 山本 崇雄『「学びのミライ地図」の描き方 子どもの「やりたい!」を自律した学びにつなげる』学陽書房, 2022 P71~108 第2章 自分からどんどん学ぶ子の資質・能力とは?を参考にした。

ii 同上 P80 より引用

iii 同上 P156 を参考にした。